

青森支部定期支部大会



=青森支部大会で挨拶に立つ阿部一久支部委員長=

平和、労働条件の闘い 組織拡大に全力

=両支部で定期大会開催・新役員体制も確立=

青森 新幹線開業に伴う職場再編に不安

大会では経過と方針討論を合わせて9人の代議員が発言。来春の北海道新幹線開業を控え、「配置車両が無くなり、大幅な要員削減が見込まれている。57歳以上の社員へはJR北海道のグループ会社へのエルダークロージングの面談や、56歳以上の社員へはE231系の機器更新に伴う車両改造作業に向けた面談も実施されている。多くの組合員が悩み、不安を抱えている」と職場再編に対する率直な不安が出され、「E800型機関車の投入で青森信号所での機関車交換作業が増加。JR東日本からのエルダークロージングも活用することになるが、入換経験のない中での操業業務の教育で

第58回青森支部定期大会が11月1日(約50人参加)青森県労働福祉会館で、第37回盛岡支部定期大会が11月8日(約40人参加)に盛岡国労会館で開催された。両支部大会とも安本法の廃止にむけた闘いや労働条件改善・組織の拡大・参議院選挙や北上市議選などに地方本部と一体となり全力で運動を進めて行くことを意思統一した。なお、今年役員改選の年であり別記の通り新役員を選出した。

執行委員長 阿部 一久 (八戸運輸分会)
 執行副委員長 阿保 光春 (青森運輸区分会)
 書記長 田崎 秋弘 (青森運輸区分会)

総合交通体系の確立に 交通基本法を活かそう

青森県交運労協定期総会

各地から初雪の声も聞こえ始めた11月27日、青森県労働福祉会館において「青森県交通運輸労働組合協議会第23回定期総会」が開催された。国労も幹事の阿部委員長をはじめ3人が参加。総会は、10月の連合青森定期大会で山内議長が事務局長に就任したことから新しい議長を選出する総会となり、議長に就任した山内議長は「結成当時一万人を数えていた加盟人員も、現在は約五千人と半減している。少子高齢化と地方過疎化がすすむ中、地域の公共交通存続と活性化へ私

たちの役割はますます重要になっていく。安倍政権は安全保障関連法案を衆議院で強行採決し、労働者派遣法を改悪するなど暴走を続けている。この暴走を止めるためにも来年7月の参議院選挙勝利にむけ、総力を挙げ闘い抜こう」と述べ、活動の活性化を進めることとした。

来賓には東北交運労協小野副議長と国土交通省青森運輸支局大木専門官、連合青森敦賀副事務局長が参席し、挨拶をいただきました。

方針討論では2人の代議員が発言し、役員選出では新議

長にJR総連の木下武さんが選出されました。この後「持続可能な総合交通体系の確立に向け、交通政策基本法を活かし、力強い運動を構築しよう」とする総会スローガンを採択し、退任する山内議長と新任の木下議長がそれぞれ挨拶しました。

最後に「誰もが安全・安心、人と環境にやさしい輸送サービスの提供」に奮闘する総会宣言を採択し、木下新議長による団結ガンパローで総会を終えました。

青森支部執行員 高瀬 貴弘

盛岡 技術継承・エルダークロージング等での発言

大会は、中堤聡司副委員長の開会あいさつで始まり、議長に伊藤淳代議員(盛岡運輸区分会)を選出し議事進行され、佐々木研司委員長が「安本法が成立したが、息の長い運動で廃案に追い込みたい。北上市議選の勝利に向け、全力を尽くして闘っていく。運動の原点は職場にある。国労

加入の一言をかけた。組織拡大に取り組みで行こう」とあいさつした。来賓・国労議員団からあいさつをいただき、米田勝義執行委員が寄せられた2件のメッセージを読み上げた。その後、佐藤都久雄書記長が経過と運動方針(案)を提起し議題に入った。

経過・方針では9人の代議員から、①若手社員の技術継承問題②新採対策に向けた分会の取り組み③エルダークロージングに対する労働条件改善の問題④貨物職場の実態と2016春闘の闘い⑤冬期要員の問題などの発言があった。さらに、多くの代議員から組織拡大の取り組みと組織を守るための発言も出された。地方本部に関する内容は、地本の沢田光広書記長が答弁し、佐藤都久雄書記長が集約し採択され方針が確立した。

大会では、規約の一部改正とスト権が代議員の一票投票で確立された。また、支部役員改選が行われ、新執行部体制が決定した。当面する諸課題の解決に向け、佐々木研

員から、①若手社員の技術継承問題②新採対策に向けた分会の取り組み③エルダークロージングに対する労働条件改善の問題④貨物職場の実態と2016春闘の闘い⑤冬期要員の問題などの発言があった。さらに、多くの代議員から組織拡大の取り組みと組織を守るための発言も出された。地方本部に関する内容は、地本の沢田光広書記長が答弁し、佐藤都久雄書記長が集約し採択され方針が確立した。

大会では、規約の一部改正とスト権が代議員の一票投票で確立された。また、支部役員改選が行われ、新執行部体制が決定した。当面する諸課題の解決に向け、佐々木研

執行委員長 石田 春夫 (青森電気分会)
 成田 芳隆 (青森施設分会)
 高瀬 貴弘 (青森駅連合分会)
 小泉 正直 (青森運輸区分会)
 執行副委員長 福井 芳則 (青森運輸区分会)
 横濱 幸徳 (青森施設分会)

2日目は、国労本部から坂口委員長、東日本本部より佐藤書記長・武田組織部長が、組織強化・拡大を中心に報告を行った。全体討論では、7人から本部・東日本本部への要望を含めて発言がされ、国労が抱える諸課題について参加者全体で確認し閉会した。

11月13日、原子力規制委員会は、高速増殖炉「もんじゅ」の運営主体を日本原子力研究開発機構から変えるよう所管する文科省に勧告した。

半年をめどに新たな運営主体を示さなければ、もんじゅのあり方を抜本的に見直すことも求められている。▼勧告文では、原子力機構について1995年のナトリウム漏れ事故以降、対策を講じても成果が得られていない。「個別に是正すれば足りる段階を超えた。安全に運転する資格がない」と結論づけている。12年に発覚した約1万点の機器の点検漏れや、13年に規制委員会から運転再開準備を禁じる命令を受けた後も管理不備を繰り返してきた。いまだ技術確立がされていない原子力政策は、福島第1原発事故で明らかになったように、人々の生活を破壊してしまう。新たな運営主体などを考えれば即刻見直すべきである。▼青森県に於いては、六ヶ所再処理工場が11年に20億円をかけて完成した「緊急時対策所」が新規制では不十分とされ、日本原燃は新たに新規制基準に対応した「緊急時対策所」を建設するとしている。来春3月に完工予定だったが再処理工場も2年以上の長期延長を発表した矢先である。「もんじゅ」にはこれまで建設と維持管理費に1兆円も投じ、六ヶ所の「緊急時対策所」は結局使用できない状況となった。▼再稼働を予定している各原発でも新規制に対応した工事を進めており、今後とも引き続き核のゴミ問題を棚上げにしながら、安倍政権は税金の無駄遣いと、沖縄県以外に国民が支払う電力使用量で更に国民を窮地に追い込もうとしている(阿)



発行所 国鉄労働組合 盛岡地方本部
 発行者 佐々木 力
 編集者 及川 孝
 TEL 019-622-5021
 メールアドレス nrumori@poem.ocn.ne.jp

2015.12.10 第1488号

拡大キャッチコピー 「新しい仲間づくりを 皆の力で」 「一緒に解消しませんか、 あなたの疑問。 加入ってます」



=盛岡支部大会参加した代議員および関係者=

当面の主な日程

- ▽12月13日(盛岡) 平和環境岩手県センター第26回定期総会
- ▽12月15日(盛岡) 岩手県交運労協第25回定期総会
- ▽12月16日(盛岡) 第3回地方本部執行委員会
- ▽1月10日(青森) 青森支部分会代表者会議及び旗開き
- ▽1月11日(盛岡) 盛岡支部分会代表者会議及び旗開き

54人の参加で 「国労東北協議会」 労働講座

国労東北協議会が主催する、第12回東北労働講座(活動家交流集会)が11月23日・24日の両日、盛岡市のつなぎ温泉「愛真館」で開催され、東北3地本からの参加者と関係者54人が参加した。なお、初日の日程が終了後、国労東北協議会第30回定期総会が開催された。

最初に、国鉄労働会館盛岡地方部が主催する盛岡地区労働講座が開催され、月間労働組合編集長の松上隆明氏を講師に迎え、「政治情勢と労働組合の課題」と題し、約90分の講演を行った。

討論では盛岡地本から、横内俊博さん(盛岡電気分会)の2人が、①若手社員の職場実態と技術継承の問題②組織拡大に向けた取り組み③若手社員の業務研究・報告物、与えられた業務により超勤時間が増える実態やサービス残業・年休取得の問題など共通する課題も多く報告された。

2日目は、国労本部から坂口委員長、東日本本部より佐藤書記長・武田組織部長が、組織強化・拡大を中心に報告を行った。全体討論では、7人から本部・東日本本部への要望を含めて発言がされ、国労が抱える諸課題について参加者全体で確認し閉会した。

11月13日、原子力規制委員会は、高速増殖炉「もんじゅ」の運営主体を日本原子力研究開発機構から変えるよう所管する文科省に勧告した。

半年をめどに新たな運営主体を示さなければ、もんじゅのあり方を抜本的に見直すことも求められている。▼勧告文では、原子力機構について1995年のナトリウム漏れ事故以降、対策を講じても成果が得られていない。「個別に是正すれば足りる段階を超えた。安全に運転する資格がない」と結論づけている。12年に発覚した約1万点の機器の点検漏れや、13年に規制委員会から運転再開準備を禁じる命令を受けた後も管理不備を繰り返してきた。いまだ技術確立がされていない原子力政策は、福島第1原発事故で明らかになったように、人々の生活を破壊してしまう。新たな運営主体などを考えれば即刻見直すべきである。▼青森県に於いては、六ヶ所再処理工場が11年に20億円をかけて完成した「緊急時対策所」が新規制では不十分とされ、日本原燃は新たに新規制基準に対応した「緊急時対策所」を建設するとしている。来春3月に完工予定だったが再処理工場も2年以上の長期延長を発表した矢先である。「もんじゅ」にはこれまで建設と維持管理費に1兆円も投じ、六ヶ所の「緊急時対策所」は結局使用できない状況となった。▼再稼働を予定している各原発でも新規制に対応した工事を進めており、今後とも引き続き核のゴミ問題を棚上げにしながら、安倍政権は税金の無駄遣いと、沖縄県以外に国民が支払う電力使用量で更に国民を窮地に追い込もうとしている(阿)

第20回東日本本部 マラソン大会

駅伝・盛岡チームが4位

個人に53人・駅伝に15チームが参加



3区の黒井選手(宮古地域分会)から3位でたすきが4区村上選手へ(青森運輸区OB)

第20回東日本本部マラソン大会が11月7日(土)に皇居外周マラソンコースで駅伝には15チーム90人、個人に53人が参加し開催された。盛岡地本からは駅伝1チーム6人と個人に2人が参加した。(家族参加の佐藤賢哉さんは一関

運輸分会・佐藤英雄氏、千葉健史さんは北上工務分会・千葉弘樹氏のご子息) 競技は12時15分スタートで個人の部、駅伝が13時15分スタートで進められた。 駅伝の盛岡チームは1区佐藤選手が2位で2区菊池選手

へ、菊池選手は4位で3区黒井選手へ、黒井選手は2人抜き2位で4区村上選手へ、村上選手も頑張り3位で5区佐藤選手へ、佐藤選手も3位を守り最終6区の千葉選手へ、20歳の千葉選手は今回初参加でアンカーを務め、無事4位でゴールした。優勝は、1時間18分38秒で長野地本Aチーム、3連覇で9度目の優勝となった。

盛岡の駅伝・個人の成績は次の通り。

- ◇ 駅伝メンバー・成績
- ▽1区(5キロ) 佐藤 賢哉(家族) 16分59秒(区間2位)
- ▽2区(2・5キロ) 菊池 憲光(盛岡運輸区分会) 10分46秒(区間8位)

- ▽3区(2・5キロ) 黒井 恒夫(宮古地域分会) 10分25秒(区間2位)
- ▽4区(2・5キロ) 村上 敏光(OB) 10分23秒(区間4位)
- ▽5区(2・5キロ) 佐藤 隆文(OB) 11分08秒(区間4位)
- ▽6区(5キロ) 千葉 健史(家族) 22分52秒(区間12位)
- ▽トータル 1時間22分33秒
- ◇ 個人成績(5キロ)
- ▽花田 長蔵(北上工務分会) 第21位 25分19秒
- ▽八嶋 昌二(青森運輸区分会) 第41位 27分40秒

地本家族会総会 交流会はわんこそばV対決



「総会は盛岡労会館で開かれた」

11月7日、盛岡国労会館に於いて第51回家族会盛岡地方連合会定期総会が開催されました。盛岡支部からは初参加

の滝谷隆子さんをはじめ5人、青森支部からも5人、役員5人合わせて15人での総会となりました。 昨年第50回の総会記念レセプション以来の馴染みの顔ぶれの再会に、心落ち着く場やっぱり家族会の集いはいいものだ嬉しくなりました。 総会は、会長のあいさつに続き地方本部の菊池組織部長から現状報告を受け、次第にそって進行されました。 青森支部の佐々木ゆかりさんからは「今後盛岡支部家族会が復活するという見通しはありますか」との質問が出され、会長からは「現状を考えると難しいです」と回答されました。再開の困難さを皆さ

んが感じたことと思います。 私からの今年度青森支部行動に不参加だったことの質問に、「国際女性デーとの同日開催のため参加を断念した」とのことでした。青森支部行動は全員の家族会・青年部・婦人部の方々と交流し、連帯を感じることが出来る唯一の集会です。来春は是非参加していただきたいと思っていました。 総会終了後は紺屋町の東屋で「わんこそば大会」で交流しました。指定のエプロンを見つけて「はいじゃんじゃん、はいどんどん」の掛け声の中黙々と「いいえ、「わんこそば」と笑いながらにぎやかに闘われました。40杯50杯と進むと離脱する方が続出。

が青森市で開催された。初日の市民会館で開催された開会総会には全国から1800人が参加した。 国労からも青森支部から現地実行委員会のメンバーとしての取り組みや総会・分科会への参加を含め述べで約60人、平和環境岩手県センター代表団14人の一員として4人が参加。 開会総会後のシンポジウムのテーマは「戦争法廃止、立憲主義確立、憲法擁護のため私たちは今後どう闘うのか」ルポライター・鎌田慧、日本体育大学教授・清水雅彦、上智大学教授・中野晃一、戦争をさせない1000人委員会信州事務局・喜多英之の4人は、全国を取材するルポライター、哲学・政治学、憲法学、市民運動等のそれぞれ立場から安倍政権が強行採決した安保法を批判。同日発生し報道されていたパリ同時テロ事件にも触れ、「力による抑止力では繰り返される戦争の犠牲は多くの市民だ」

と訴えた。 今後の闘いについては、安保法が9月17日に強行採決された。しかし、60年安保闘争時の闘いと違いシルズをはじめ若者、各年齢層が立ちあがり明るい光を感じる、闘いはこれからだ。戦争法の廃止にむけ組織された団体、新しく生まれた運動体との一体化を図り、来年の参議院議員選挙をはじめあらゆる闘いを展開し戦争法廃止、戦争をしない国を目指そうと訴えた。 2日目は、会場を分散した7分科会と「六ヶ所・三沢コース」・「車力・五所川原コース」のフィールドワークが行われた。 3日目の閉会総会では、沖繩辺野古の現状と今後の闘いや反原発などの闘いの報告を受け、「私たちの未来を、命の尊厳を、そして憲法を安倍政権から奪い返すため、ともに頑張りあう決意をしよう」とのアピールを採択し終わつた。武力によることなくテロの根源とされる世界の貧困をなくす運動、戦争をさせない平和・護憲運動を広めることの大切さを再認識した大会参加となった。

=11/14~16=

仲間と連帯し「戦争法」の廃案を 護憲大会・全国から1800人が結集・青森

11月14日、16日の3日間、「不戦と民主主義―戦後の誓いを忘れない―憲法理念の実現をめざす第52回護憲大会」

が青森市で開催された。初日の市民会館で開催された開会総会には全国から1800人が参加した。

国労からも青森支部から現地実行委員会のメンバーとしての取り組みや総会・分科会への参加を含め述べで約60人、平和環境岩手県センター代表団14人の一員として4人が参加。

開会総会後のシンポジウムのテーマは「戦争法廃止、立憲主義確立、憲法擁護のため私たちは今後どう闘うのか」ルポライター・鎌田慧、日本体育大学教授・清水雅彦、上智大学教授・中野晃一、戦争をさせない1000人委員会信州事務局・喜多英之の4人は、全国を取材するルポライター、哲学・政治学、憲法学、市民運動等のそれぞれ立場から安倍政権が強行採決した安保法を批判。同日発生し報道されていたパリ同時テロ事件にも触れ、「力による抑止力では繰り返される戦争の犠牲は多くの市民だ」

と訴えた。 今後の闘いについては、安保法が9月17日に強行採決された。しかし、60年安保闘争時の闘いと違いシルズをはじめ若者、各年齢層が立ちあがり明るい光を感じる、闘いはこれからだ。戦争法の廃止にむけ組織された団体、新しく生まれた運動体との一体化を図り、来年の参議院議員選挙をはじめあらゆる闘いを展開し戦争法廃止、戦争をしない国を目指そうと訴えた。

2日目は、会場を分散した7分科会と「六ヶ所・三沢コース」・「車力・五所川原コース」のフィールドワークが行われた。 3日目の閉会総会では、沖繩辺野古の現状と今後の闘いや反原発などの闘いの報告を受け、「私たちの未来を、命の尊厳を、そして憲法を安倍政権から奪い返すため、ともに頑張りあう決意をしよう」とのアピールを採択し終わつた。武力によることなくテロの根源とされる世界の貧困をなくす運動、戦争をさせない平和・護憲運動を広めることの大切さを再認識した大会参加となった。

東日本本部組織部会長会議

情報の共有化も課題 分会オルグの展開を

11月3日、国労東京地本会議室で東日本本部主催の「各地方・地区本部組織部長会議」が開催され25人が出席した。盛岡からは菊池要悦組織部長が出席。 武田幸喜組織部長の「他労組と違うからこそ拡大していくのだから見えていない状況にある。情勢を話したり、仕事の話をするのは現場、分会や個人がやらなければ拡大

ではない。組織拡大対策会議や経験交流集会を開催するが参加した組合員に止まっている。全組合員が共有し声掛けできる体制を作るために分会会場の実施を」との提起を受け、各地方の取り組みについて意見交換。「青年や他労組との付き合いはあるが、個人的なものに止まっている。設備職場対策会議や駅組織対策プロジェクトチームを立ち上げて取り組み」「出向先を含め要求や不満はあるが、国労として対応しきれていない。JESSとの交渉実施で成果を獲得すべき」「労組未加入の仲間が班全体に共有されないため本人に対する班としての関わりができていない。情報の共有化を図っていくということも課題である」との発言もあった。

盛岡からはこの間の会議で大会で出されていた組合員の声を受けて「集まり・話し・共有する」ことを継続的に取り組んでいくことを報告した。 次回の組織部長会議までに各地方で分会会場をやりこめることを全体で確認し、会議を終了した。

東北ろうきん **ウインターキャンペーン 2015** 11/1(日) ▶ 12/31(木)

下記対象取引のいずれかをご契約・お申込みいただいた方に、**つや姫〈無洗米〉300gをプレゼント!**

店頭表示金利に金利上乘せ **年0.10%**

新規で5万円以上の定期預金(1年もの)をお預入れの方は店頭表示金利に年0.10%を上乗せします。

お問い合わせは **東北労金へ** ☎ 0120-1919-62

※ATMやろうきんダイレクトでの取引も対象となります。(店頭でのお申し出が必要となります。)
 ※キャンペーンのプレゼントは、個人のお客さまが対象となります。
 ※つや姫のプレゼントは「1お取引項目につきお一人様1つ」となります。
 ※「特別金利定期預金」はプレゼントの対象外となります。
 ※対象の商品概要については、店頭にて説明書をご用意しております。
 ※詳しくはお近くのろうきん窓口にお問合せください。